

伊豆の豊かな海を守る海藻移殖研究

(予算区分 研究費 研究期間 2023～2025 年度)

担当：水産・海洋技術研究所伊豆分場 角田充弘

【研究の背景とねらい】

- ・伊豆半島沿岸では、黒潮大蛇行によって磯焼けが発生することが知られています。2017 年 8 月から発生している黒潮大蛇行は、2023 年 3 月時点でも継続し、史上最長となっています。この影響により、伊豆半島沿岸の磯焼けは継続しており、藻場の更なる衰退がみられています。
- ・2020～2022 年度に実施した「伊豆特産海藻の増養殖研究」では、伊豆半島の海藻着生状況調査により、テングサは西伊豆海域、ヒジキ、カジメ等は伊豆半島各地で減少していることが明らかとなり、2021 年には、これまで影響が少なかった下田市白浜地先、田牛地先でも磯焼けがみられるようになりました。さらに、海藻の衰退により天然海域のアワビが餌不足で「痩せアワビ(図 1)」になっていることが確認されました。
- ・そこで、本研究では黒潮大蛇行が更に長期化した場合に備え、海藻着生状況調査を継続するとともに、伊豆の豊かな海を支える基盤となる海藻の移殖研究を行います。
- ・一年藻で藻食魚類の活動が活発な秋に配偶体で過ごすため、比較的食害の影響を受けにくいと考えられるアントクメ(図 2)、アカモク等を移殖海藻として積極的に活用します。



図 1 痩せアワビ



図 2 アントクメ(左)成体、(右)幼体

【期待される効果】

- ・アワビ、イセエビ等の磯根資源の餌となる海藻を移殖することで藻場が回復し、痩せアワビの改善が期待されます。また、アワビ、イセエビの漁獲量増加が期待されます。

【年次計画】

細目課題	2023 年度	2024 年度	2025 年度	研究内容
1. 海藻着生状況調査	○	○	○	・潜水調査及び聞き取り調査
2. 移殖海藻の選択	○	○	—	・移殖候補海藻の環境耐性試験 ・藻食魚類における摂餌性試験 ・メガイアワビ、クロアワビによる摂餌性試験
3. 試験海域における 海藻移殖試験	○	—	—	・試験海域の環境調査及び移殖場所選定 ・移殖海藻の種苗生産手法の検討 ・海藻移殖試験の実施

(作成 2023 年 4 月)